

第13回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2023)報告

(東北支部 第61回学術大会)

実行委員長 鈴木幸司

令和5年11月3日(金)・4日(土)の両日、山形テルサにおいて第13回東北放射線医療技術学術大会(日本放射線技術学会東北支部第61回学術大会ならびに日本診療放射線技師会令和5年度東北地域学術大会の合同開催)が会場とWeb配信のハイブリッド形式で開催されました。

今大会は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行して初めての大会ということもあり、参加者数は610名(現地参加者520名、Web参加者90名)と多数のご参加をいただきました。大会テーマは「我逢人(がほうじん)～道はつながる その先へ～」です。“新型コロナウイルス感染症が蔓延し人と会うことも制限される状況でしたが、久しぶりに顔を合わせ、語らい、議論を深め、交流がまたここから始まっていき、新たな出会いはさらなる技術や知識の習得へと発展し、未来へとつながっていく”という大会長の思いが込められています。内容もJART企画、JSRT企画、JART・JSRT合同企画、実行委員会企画と盛りだくさんとなりました。その中でも一般演題は91演題登録いただき、日常業務の中で研究や業務の改善を進めた成果を、全員会場にてご発表いただきました。実行委員としても一般演題を特に重視し多くの参加者に研究成果を視聴いただけるようプログラム割も工夫いたしました。特別講演では、社会学者で東京大学名誉教授でもあり、現在は認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)理事長の上野千鶴子先生に「医療とジェンダー:メディカル、コメディカルの連携のなかで」と題し、佐藤大会長にしかできない切り口でご講演をいただくことができました。

また今大会においては4年ぶりの情報交換会も開催することができました。まさしく我逢人を実践するかの如く会場のいたるところで久々の再会や新たな出会いが繰り広げられ、時間を忘れて交流を楽しんでいただけたことと思います。ご臨席いただいた日本放射線技術学会の石田隆行代表理事並びに日本診療放射線技師会の上田克彦会長からも高評価をいただいております。

最後に大会期間を通し大きなトラブルもなく無事に閉会を迎えることができました。これも本大会の開催にご尽力いただきました実行委員並びに協賛企業の皆様のおかげです。紙面をお借りして心より感謝とお礼を申し上げます。

大会概要

会 期 : 令和5年11月3日(金)～11月4日(土)

会 場 : 山形テルサ(ハイブリット開催)

テ ー マ : 『我逢人^{がほうじん}～道はつながる その先へ～』

参 加 者 : 600名(会員:418名, 非会員:53名, 学生:49名, 協賛企業:80名)

参加形態別(現地受付来場者 510名, Web参加(推定)90名)

内 容 : ① 一般演題発表 91演題(92演題申し込, 1演題取り下げ) セッション数 21

内訳 秋田(11), 青森(14), 岩手(11), 宮城(13), 福島(16), 新潟(7), 栃木(2), 山形(17)

② 特別講演(1), シンポジウム(2), 大会長講演(1), JART・JSRT合同企画(1)

JART企画(5), JSRT企画(学術6, 教育1)

③ ランチョンセミナー 4社

④ 企業展示 19社

開催協力 : 展示協賛19社, 抄録広告協賛 32社, ランチョンセミナー 4社,

主催 : 公益社団法人 日本放射線技術学会 東北支部

公益社団法人 日本診療放射線技師会 東北地域診療放射線技師会